

# 山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行  
山形県保険医協会  
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル  
電話 023 (642) 2838  
FAX 023 (642) 2839  
購読料 円共1ヵ月500円  
印刷 コロニー印刷

**第542号**

**新年特別号 TOPICS**

2面…医療研究フォーラム演題発表  
3面…新型コロナワクチン助成状況  
4面…年頭所感  
5面…ライオンの街と旅心  
6面…第49回総会記念講演要旨



「雲海に輝くマンダリンガーネット」

撮影 鶴岡市 志田整形外科医院 事務 進藤法明さん

出張の帰路、悪天候の雲を抜けた瞬間、あまりの美しさに思わずスマホで撮っていました。

あけましておめでとうございませう。令和7年の新年にあたり、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は6年目に入り、私たち医療従事者もだいたいコロナ対応に慣れてきたところでしょうか。はじめの頃は未知のウイルスとの戦いで、疑心暗鬼にならざるを得ない部分がありました。感染症対策に追われ、医療従事者の疲労感は極限に達していました。

特に、長年の医療費抑制政策のため統廃合の憂き目にあっていた保健所に、本当に献身的に対応していただきました。ある意味、公衆衛生的立場の保健所機能がどれほど重要か、私たち医療従事者が身に染みて分かる機会になりました。国の医療費抑制政策が結果的には国民の命・健康を脅かす重大な結果になったというところを、大事な教訓として後世に残さなければなりません。

約100年前に流行したスペイン風邪は3年間で第3波にわたり流行しました。当時の記録では全世界の25〜30%、5億人が罹患し、4000万人の方が亡くなったとされています。今回の新型コロナウイルス感染症は6年近く流行し、700万人の方が亡くなったとのこと、また正確な数字は分

かりませんが、少なくともスペイン風邪よりはかなり人類として善戦したのではないかと考えています。保健所機能・医療機能はお金に代えられない財産であると皆さんが認識したのではないのでしょうか。

昨年引き続き、ウクライナ戦争は継続し、パレスチナ・ハマスとイスラエルによる中東紛争が新たな局面に入っています。その影響は世界中の経済にも悪影響を及ぼし、物価高騰はいまだに収束する気配はなく、国民も自己防衛的に消費を切り詰め、なんとか乗り切ろうとしています。

昨年のお正月は能登半島を中心にマグニチュード7の大地震に見舞われ、被害にも遭い、いまだに復興・復旧の目処が立っていません。地域自らだけでは何ともならない状況です。こんな時こそ東日本大震災後創設された復興大臣と第2次安倍内閣で創設された地方創生大臣の出番だと思えます。初代地方創生大臣は、現総理の石破総理です。国を挙げて能登半島の援助をすべきと思います。

昨年の診療報酬改定は異例のものでした。国の医療費抑制政策が遂に開業医にまで手を伸ばしてきていると感ずります。特に「ベースアップ評価料」は2割の医

療機関しか算定しておらず、診療報酬本体も実質マインス改定になってしまっています。他業種は5%もベースアップしているとの報道を目にすると、医療従事者はコロナ対応で頑張ってきたのに、報われない思いになります。

マイナ保険証問題も引き継ぎの課題です。この問題は大変根深い問題をはらんでいます。そもそもマイナバーカードは自動更新ではなく、5年ごとに役所に出向いて手続きすることが必要で、初年度にマイナバーカードを申請した方はすでに更新時期になっています。さらに、マイナ保険証を紐づけた段階で、個人情報保護の観点から、個人情報管理を第三者に任せ、自分以外の第三者にわたってしまっています。自分の個人情報本人の分からないところで自由に利用される怖さを自覚し、何かあっても国が保証してくれる訳ではないことを忘れてはいけません。さらに、顔認証システムのなりすましはいくらでも可能で、全くセキュリティの甘い構造です。

まだまだ医療界は問題が山積していますが、県民の命と健康を守るため、会員の皆様と共に引き続き頑張っていきたいと思っております。今年もよろしくお祈りいたします。

## 新年のあいさつ

理事長 中島 幸裕

再選された要因は大きく2つあるのではないかと。この間、衆院選があり時間が経過したことやSNSを駆使した影響。新聞に「ちよつと違和感」を連載している松尾貴史氏も以下のように指摘しているが、全く同感である。知事選で起きた出来事は、結果も含め多くの人たちの目に奇妙に映っているのではないかと。選挙に関わったPR会社の社長等が公選法違反ではないかと騒がれるとネットの投稿サイトの該当箇所を削除、修正した。公選法違反の事実があったと疑われても仕方ないのではないかと。自身の選挙のことを聞かれたS知事は、代理人弁護士が対応を考えていると答えたが、弁護士に言い訳をしてもらわなければならぬ理由とは、一体どんなものか。

兵庫県在住の尊敬する親しい知人も、兵庫県民自身が選挙結果に驚いていると嘆息している。SNSのファクトチェックも重要である。

(F)

## つばさ

兵庫県知事 齋藤元彦 (以下S) 知事は、県議会 全員一致で 不信任案で失職し、出直し選挙が行われ再選された。S知事のパウハラ、おねだり疑惑を内部告発した元県幹部は処分され自死した。道義的責任を問われた知事ははぐらかした。このことに違和感を感じたが、再選されたことにもつと大きな違和感を感じた。